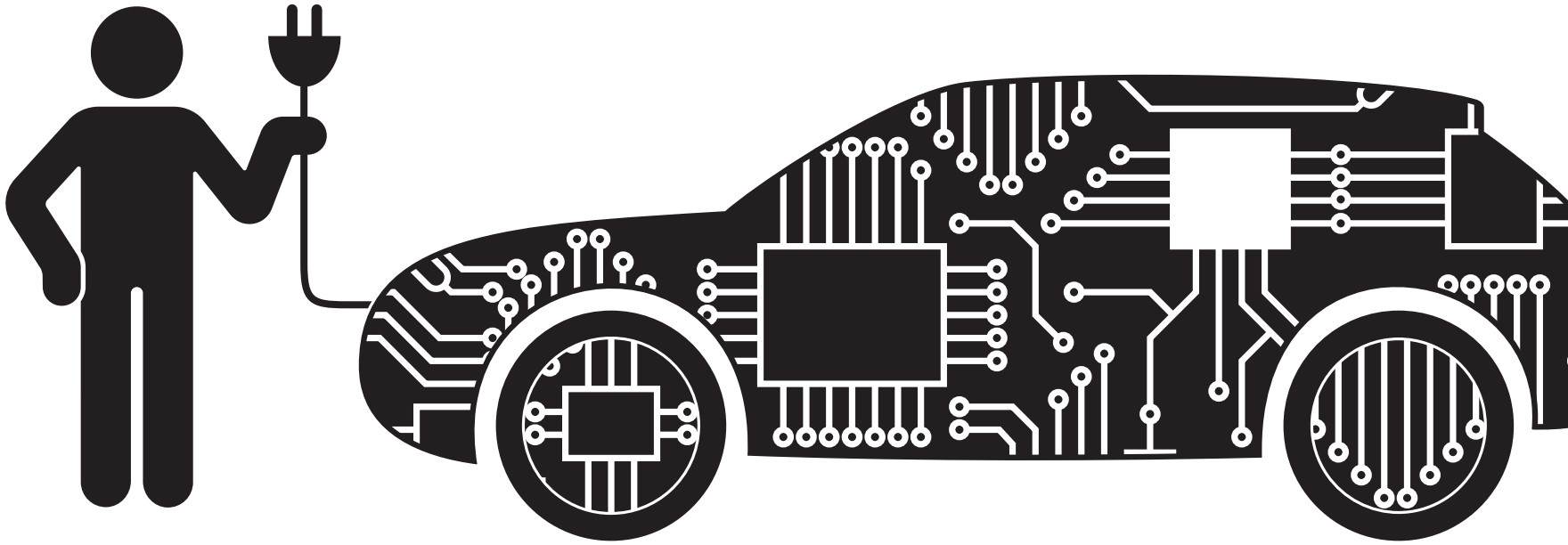
TOREX IR REPORT VOL.10

第24期 報告書 2018.4.1 > 2019.3.31

巻頭特集

トレックスの電源ICの可能性



CONTENTS

P1 巻頭特集 トレックスの電源ICの可能性
P5 トップメッセージ
P9 連結財務ハイライト
P10 会社情報・株式情報
裏表紙 About トレックス Vol.10 オートモーティブワールドに出展

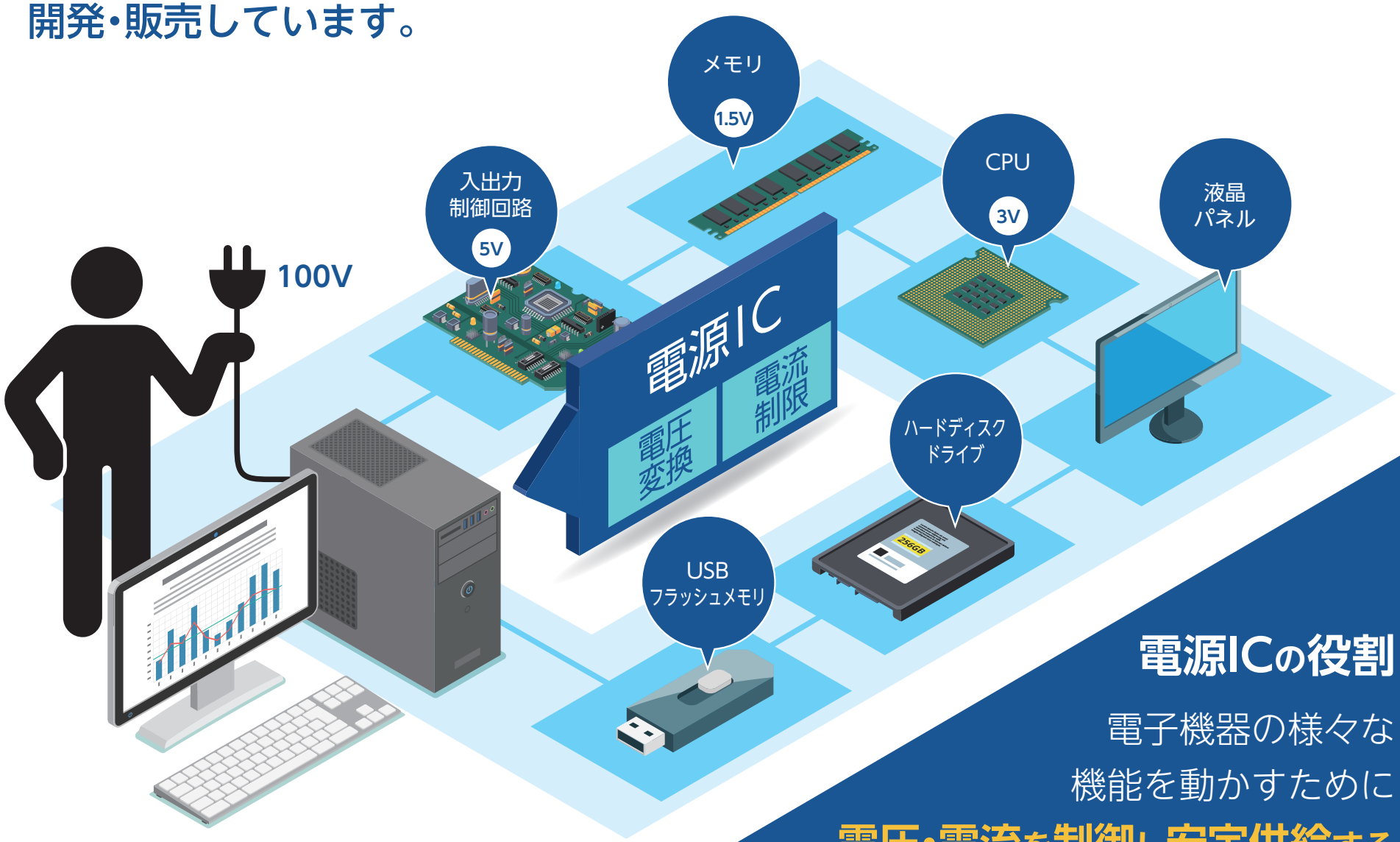
TOREX

トレックス・セミコンダクター

証券コード 6616

トレックスの電源ICの可能性

あらゆる電子機器に不可欠な電源IC。
当社は世界トップクラスの小型・省電力を実現させた電源ICを開発・販売しています。



電源ICの役割

電子機器の様々な
機能を動かすために
電圧・電流を制御し安定供給する

半導体の中でも当社は「アナログ電源IC」に特化しています。

半 導 体

デジタルIC

メモリ

情報の記憶を担う半導体。パソコンや電子機器に搭載。
(例)DRAM、SRAM、フラッシュメモリ

マイコン

情報の処理をする半導体。パソコンや電子機器に搭載。
(例)CPU、MPU

システムLSI

用途に応じた情報処理を専用に行う半導体。
(例)ASIC、ASSP

アナログIC

電源IC

電子機器の動作に必要な電圧を制御する半導体。あらゆる電子機器に搭載。
(例)VR、VD、DC/DCコンバータ

TOREX

AD/DAコンバータ

デジタルとアナログをつなぐ(変換する)半導体。自然界の信号とコンピュータをつなぐ。
(例)ADコンバータ、DAC

アンプ

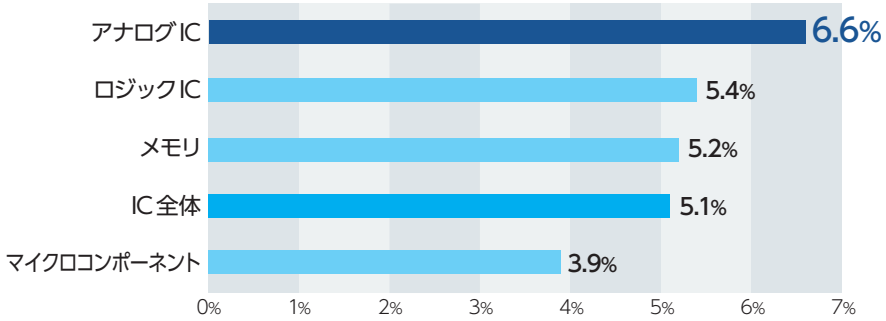
信号を増幅する半導体。オーディオアンプや通信用高周波アンプ。
(例)OPAMP、LNA

ディスクリート

電力の変換や制御をする半導体。特に高い電圧や大きな電流を扱うパワー半導体は、自動車の電装化等により需要拡大が見込まれる。
(例)ダイオード、トランジスタ、IGBT、PMOS、SiC

Phenitec
For Further Growth Together

IC全体およびICの主要4大カテゴリごとの年平均成長率予測(2017～2022年)



出典:IC Insights

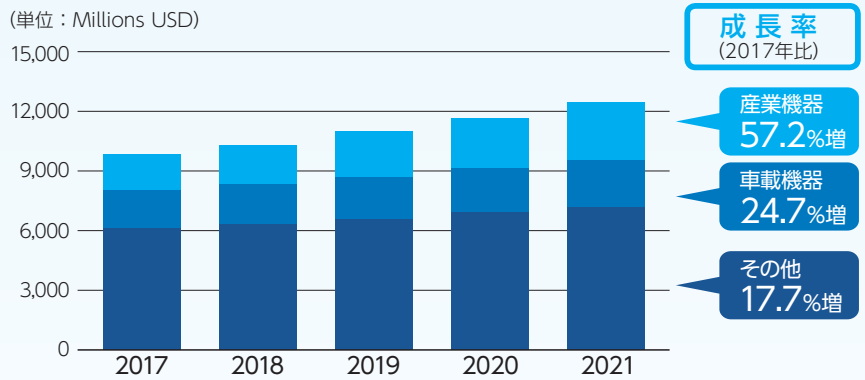
メモリと電源ICの違い

	メモリ	電源IC
価格	需給が安定せず乱高下	**安定**
投資	莫大なコスト (最先端の設備が必要)	**投資は少ないが、技術者の育成に時間がかかる**
生産	少品種大量生産	**多品種少量生産**
ライフサイクル	短い	**長い (20年以上の製品もあり)**

トレックスの電源ICの可能性

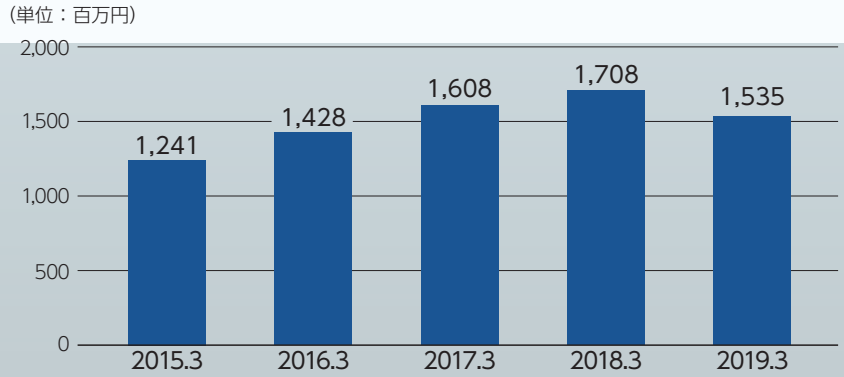
これからの電源IC市場は車載分野などにおいて相対的に高い成長が期待されます。当社では今後も高い成長が見込まれる車載分野に注力していきます。

世界の電源IC分野別市場規模の推移



出典：IHS Global株式会社調べ(2017年)

当社の車載分野における売上高の推移



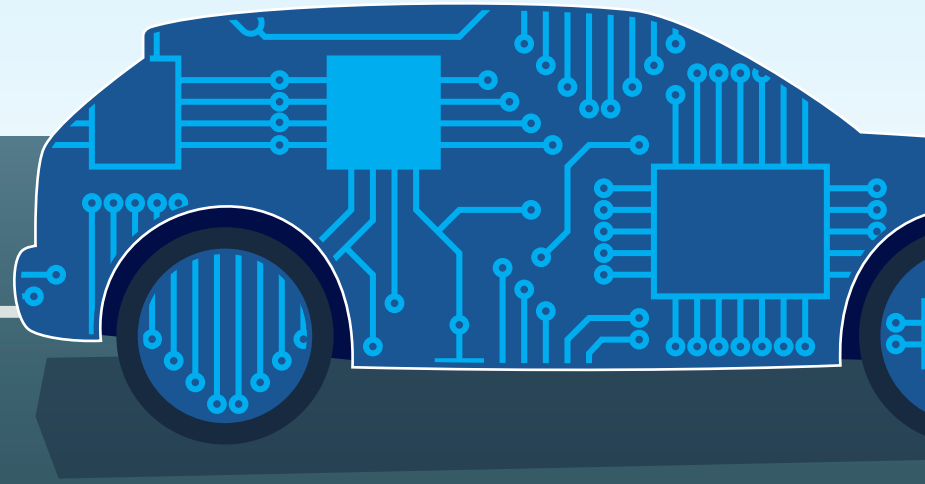
車載分野の採用例

運転席・情報機器

カーナビ
メーター
オーディオ
ディスプレイ
エアコン

ボディ系

パワーウィンドウ
パワースライドドア
シート制御
電子ミラー



今後の有望分野

アクセサリ

ドライブレコーダー
キーレスエントリー
ETC

自動運転

ADAS（先進運転支援システム）
車載カメラ、センサー

自動運転で目の役割を果たす
カメラやセンサーに電源ICが搭載

EV（電気自動車）

モーター、インバーター

EV化でフェニテックが提供する高耐圧・
大電流のパワー半導体が求められる

トップメッセージ

環境変化を乗り越えて業績を回復し、その先の飛躍を

ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、平素より当社グループ事業へのご理解とともに多大なご支援を賜り、誠にありがとうございます。

第24期（2019年3月期）の営業状況は、上半期において半導体・電子部品関連市場の高成長を受け、想定を上回る成果を上げましたが、下半期に入ると、米中貿易摩擦等を背景に市場環境が悪化し、一転して低調に推移しました。結果として連結業績は、期初の予想数値を下回り、売上高238億96百万円（前期比0.4％減）、営業利益15億50百万円（同29.9％減）、経常利益18億20百万円（同8.9％減）、親会社株主に帰属する当期純利益10億49百万円（同16.3％増）となりました。

第25期（2020年3月期）は、引き続き厳しい市場環境が続くものと見て、減収・減益を想定していますが、早期の業績回復を図りながら、重点市場におけるシェアを拡げ、持続的成長を実現してまいります。

代表取締役 社長執行役員　**芝宮 孝司**

実現していきます。

Q 第24期を振り返り、営業状況について総括願います。

A **上半期の好況から一転して市場環境が悪化し、計画未達となりました。**

当期の半導体・電子部品関連市場は、上半期において好況を持続したものの、下半期は一転し、急速に調整局面に入りました。これは、米中貿易摩擦を背景とした中国経済の減速などによる影響を受けたものです。

そのため当社グループにおいても、上半期は半導体の受託製造を担うフェニテックが納期対応に追われていましたが、年末以降は中国・台湾からの受注が激減する状況となりました。

フェニテックを除く旧トレックスグループ(以下、トレックス)は、重点市場である産業機器向けや医療機器向けの製品を中心に売上を伸ばしながらも、中国における新車販売減少の影響等により車載機器向けの売上が低調に推移しました。

結果として当期の連結業績は、売上高がほぼ前期並みにとどまるとともに、フェニテックの工場統合に伴う減価償却費や修繕費の増加により、営業利益・経常利益は減益となりました。なお親会社株主に帰属する当期純利益は、フェニテックへの出資比率上昇による非支配株主に帰属する当期純利益の減少等により増益となりました。

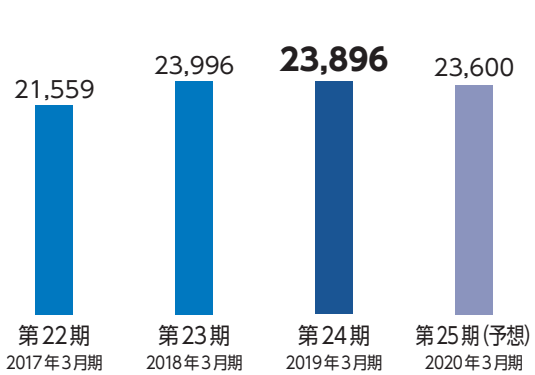
先を読みにくい市場環境であったとはいえ、急速な変化に対して十分に対応し切れなかったことは、大いに反省を要する点です。需要予測と情報分析の精度をより高め、迅速かつ的確な判断に努めてまいります。

今後については、こうした市場環境による厳しさが今期(2020年3月期)の上半期まで続いた後、下半期からは回復に向かっていくものと予想しています。

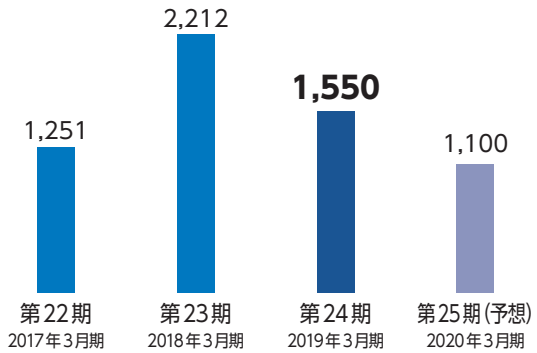
■ 為替レートの推移

	2018年3月期	**2019年3月期**
平均為替レート(1米ドル)	110.8円	**110.7円**

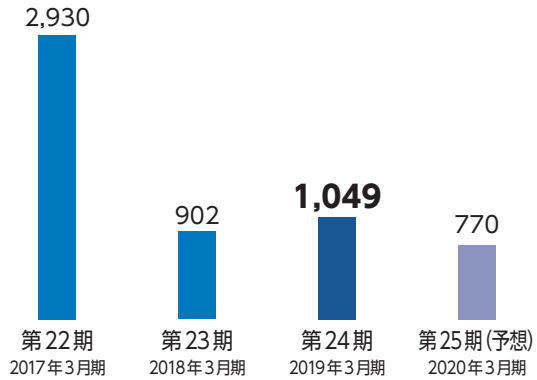
■ 売上高(単位：百万円)



■ 営業利益(単位：百万円)



■ 親会社株主に帰属する当期純利益(単位：百万円)



Q 成長戦略の進捗と今後についてご説明願います。

A 取り組みを成果につなげ、持続的成長と収益性向上を果たしてまいります。

当社グループは、車載機器・産業機器・医療機器の3分野を重点市場と定め、トレックスの売上高に占める割合を3分野で60%に高める目標を掲げています。

当期は、車載機器向けの売上が前期比10.1%減とマイナスに転じ、前期の17億8百万円から15億35百万円に減少しました。しかし産業機器向けは、前期の37億28百万円から39億27百万円(同5.3%増)となり、伸びを維持しています。結果として両方を合わせたトレックス売上高の割合は、53.5%から54.1%に上昇しました。車載機器向けについても、EV化や自動運転化、コネクテッドカーなどIoT化の進展によって、半導体需要はさらなる拡大が見込まれており、売上の減少は一時的なものにとどまると考えています。

車載機器向け・産業機器向けについては、引き続き製品を積極的に開発・投入し、シェアを高めていく方針です。

また当期は、高付加価値製品として注力するDC/DCコンバータが順調に売上を伸ばし、その中でもコイル一体型マイクロDC/DCコンバータ「XCLシリーズ」は、車載機器・産業機器・民生機器など、幅広い分野に採用されました。今後は、「XCLシリーズ」のさらなる拡大に向けて、同シリーズ専門の開発部署を設置し、ラインアップの拡充を図り、受注拡大につとめます。

一方、高付加価値製品におけるもう一つの注力テーマとして、当社グループはフェニテックとトレックスの協業によるパワーデバイスの開発を進めています。その取り組みと並行してフェニテックでは、鹿児島工場の活用によりパワーデバイス(IGBTやSiCなどの化合物半導体)のファンドリーを増強し、車載機器向けの受託拡大と早期の収益化を目指します。

私たちは、これらの成長戦略を成果につなげていくことで、持続的成長への基盤を確立し、収益性の向上を果たしてまいります。

Q 第25期の見通しと取り組みについてお聞かせください。

A フェニテックの受注減少と償却費の増加による減収・減益を予想しています。

第25期(2020年3月期)は、引き続き厳しい市場環境が続くと思われますが、当社グループの営業状況においては、車載機器向け・産業機器向けを中心とする強い需要を受け、下半期から回復に向かうと見込んでいます。そうした回復局面の需給変化を想定し、お客様の需要にきちんと応えることができるように準備しておくことが重要だと考えています。

私たちは、前述の成長戦略を着実に進展させ、収益の底上げを図る一方、新たな重点対象として、キャッシュレス化の流れを受けたスマートカードの普及や5G通信の実用化による部品需要を獲得すべく、メーカーへのデザインインに一層傾注していきます。

なお当社グループは、2018年8月にフェニテック第一工場の新棟を竣工し、本社工場を第一工場へ統合する量産移管への体制を整えました。そして2019年2月1日付で、フェニテックを株式交換により当社の完全子会社としました。生産機能の拡充とともに、グループ経営のさらなる強化・効率化に向けた統合を果たしたことで、従来以上にスピード感ある事業展開を目指してまいります。

第25期の連結業績については、フェニテックの受注減少と工場統合に伴う減価償却費の増加などによる影響を踏まえ、売上高236億円(当期比1.2%減)、営業利益11億円(同29.1%減)、経常利益11億円(同39.6%減)、親会社株主に帰属する当期純利益7億70百万円(同26.6%減)を予想しています。

Q 株主・投資家の皆様にお伝えしたいメッセージをお願いします。

A **お客様、社会とともに豊かな未来づくりを実現する企業として歩んでいきます。**

今回の期末配当は、株主資本配当率(DOE)3%を目処に配当の充実と安定維持を目指す利益還元方針にもとづき、当初の予定通り1株当たり20円を実施しました。これにより年間配当額は、同18円の中間配当と合わせて、同38円、DOEは2.5%となりました。

第25期の年間配当額は、上記方針のもと減益予想ながら増配し、1株当たり40円(中間・期末とも同20円)の実施を予定しています。

なお当社は自己株式について、2019年3月6日から同年8月30日までを取得期間、株式取得総数60万株・取得価格総額8億円を上限とする取得を進めています。取得株式については、現時点で用途を定めていませんが、株主の皆様の利益に資する活用を行ってまいります。

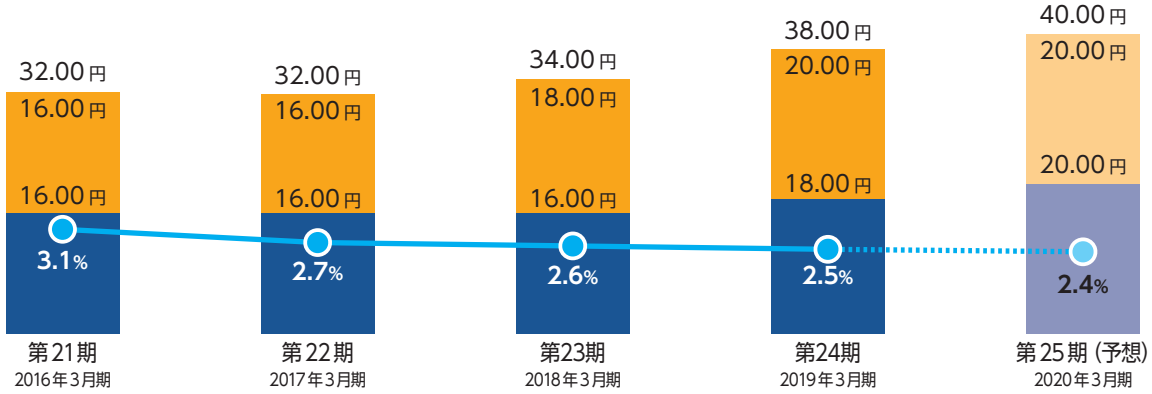
これからの当社は、株主・投資家の皆様により安心してご支援いただける企業を目指し、IR活動の強化を図ってまいります。適切かつ迅速な開示はもちろんのこと、事業内容や経営戦略をわかりやすくお伝えする情報発信につとめ、コミュニケーションを活性化させることで、ご理解を一層深めていただく考えです。

また、環境・品質・社会への取り組みと組織統治のあり方を具体的に示した「CSR活動方針」にもとづき、事業活動を通じて地球環境の保全と豊かな社会づくりに貢献していく所存です。

私たちが世の中に提供するアナログ電源ICやパワーデバイスは、半導体・電子部品関連市場の長期的な拡大の中で、ますます存在感を高め、様々な形で社会インフラを支えていく存在になると確信しています。お客様とともに、社会とともに豊かな未来づくりを実現する企業として、私たちは前進してまいります。

株主の皆様におかれましては、当社グループのさらなる成長・発展にご期待いただき、これからも長期的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。

配当金の推移 ■■中間配当 ■■期末配当 ●●株主資本配当率(DOE)



連結財務ハイライト

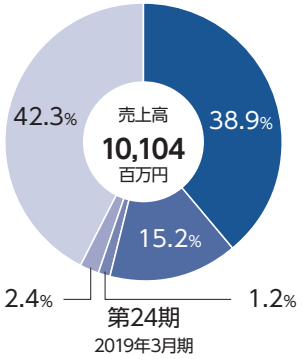
		第21期	第22期	第23期	**第24期**
		2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	**2019年3月期**
売上高	(千円)	10,621,282	21,559,622	23,996,944	**23,896,699**
営業利益	(千円)	1,139,901	1,251,098	2,212,324	**1,550,962**
売上高営業利益率	(%)	10.7	5.8	9.2	**6.5**
経常利益	(千円)	970,553	905,707	1,998,187	**1,820,249**
親会社株主に帰属する当期純利益	(千円)	580,401	2,930,551	902,176	**1,049,117**
総資産額	(千円)	12,972,871	25,209,563	27,995,000	**28,385,653**
純資産額	(千円)	10,928,988	15,597,571	19,085,463	**19,638,097**
自己資本比率	(%)	83.9	45.3	51.8	**69.0**
自己資本利益率（ROE）	(%)	5.3	26.3	7.0	**6.2**
営業活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	1,302,563	1,635,310	2,335,353	**2,699,779**
投資活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	△169,423	2,714,677	△697,406	**△3,256,749**
財務活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	△422,349	△994,266	1,151,752	**△928,319**
現金及び現金同等物の期末残高	(千円)	6,855,452	9,714,789	12,280,327	**10,883,205**
1株当たり当期純利益金額	(円)	54.59	308.77	99.44	**95.89**
1株当たり純資産額	(円)	1,022.30	1,267.65	1,338.74	**1,717.90**
1株当たり配当額	(円)	32	32	34	**38**
配当性向	(%)	58.6	10.7	34.2	**39.6**

※ 売上高には、消費税等は含まれておりません。

TOREX

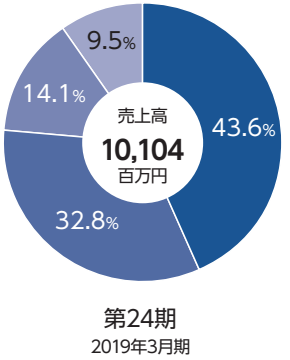
アプリケーション別売上高

■産業機器 ■車載機器 ■医療機器 ■ウェアラブル機器 ■その他



地域別売上高

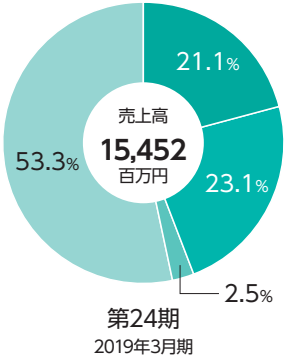
■日本 ■アジア ■欧州 ■北米



Phenitec
For Further Growth Together

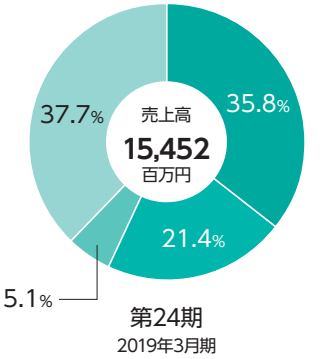
アプリケーション別売上高(参考値)

■産業機器 ■車載機器 ■医療機器 ■ウェアラブル機器 ■その他



地域別売上高

■日本 ■アジア ■欧州 ■北米



※ トレックス・セミコンダクター向けの内部取引分を含みます。

■ 会社情報 (2019年3月31日現在)

会社概要

社　　名	トレックス・セミコンダクター株式会社
所 在 地	東京都中央区新川1-24-1 ユニゾ新川永代通りビル3F
設　　立	平成7年(1995年)3月
資 本 金	29億6,793万円
事業内容	1. 半導体デバイスの開発、設計製造 2. 半導体デバイスの販売
従業員数	連結／1,017名　個別／168名

役員一覧 (2019年6月25日現在)

■ 取締役（監査等委員である取締役を除く）

代表取締役 会長執行役員	藤阪知之（ふじさかともゆき）
代表取締役 社長執行役員	芝宮孝司（しばみやこうじ）
取締役 常務執行役員	木村岳史（きむらたけし）
取締役 執行役員	日笠基（ひかさもとい）
取締役	谷英昭（たにひであき）

■ 監査等委員である取締役

常勤監査等委員(社外)	池田耕太郎（いけだこうたろう）
監査等委員(社外)	小松熙（こまつひろし）
監査等委員(社外)	川俣尚高（かわまたなおたか）
監査等委員(社外)	清水満昭（しみずみつあき）

■ 株式情報 (2019年3月31日現在)

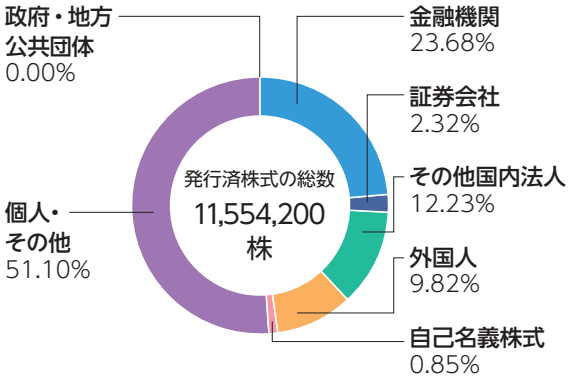
株式の状況

発行可能株式総数..... 36,673,600 株

発行済株式の総数..... 11,554,200 株

株主数 ..... 4,272 名

所有者別株式分布



大株主（上位 10 名）

株主名	所有株式数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,305,700	11.40
THE BANK OF NEW YORK 133652	551,900	4.82
藤阪　知之	499,300	4.36
株式会社中国銀行	472,190	4.12
アルス株式会社	452,000	3.95
尾崎　貴紀	321,500	2.81
芝宮　孝司	291,700	2.55
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	248,420	2.17
尾崎　公子	205,700	1.80
仲　剛志	162,000	1.41

※ 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎事業年度終了後3ヶ月以内
株主確定基準日	3月31日
期末配当金株主確定日	3月31日
中間配当金株主確定日	9月30日
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内 一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
事務取扱場所	東京都千代田区丸の内 一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

郵便物送付先・連絡先	(郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 (連絡先) 0120-782-031
公告方法	当社の公告方法は、電子公告としております。 ただし事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載しております。 当社の公告掲載URLは次のとおりです。 https://www.torex.co.jp/

About トレックス

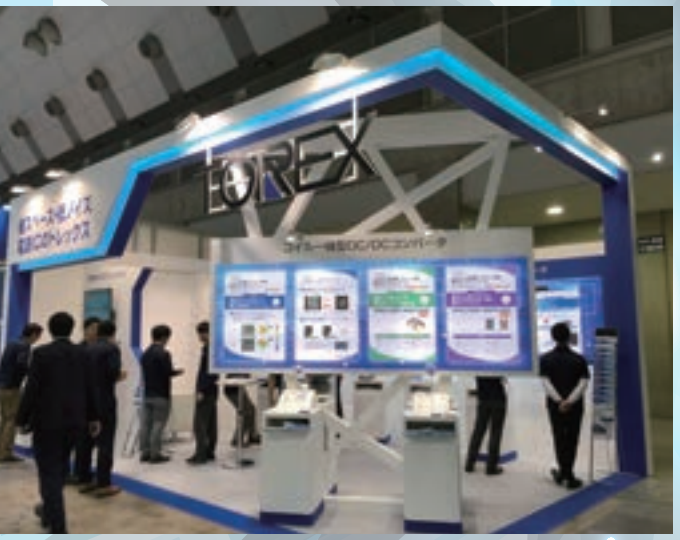
アバウト・トレックス　Vol.10

TOREXにまつわる色々なことをご紹介します。

オートモーティブワールド「国際カーエレクトロニクス技術展（カーエレJAPAN）」に出展

当社は、2019年1月16日から1月18日までの3日間、東京ビッグサイトで開催された第11回オートモーティブワールド「国際カーエレクトロニクス技術展（カーエレJAPAN）」に出展しました。

オートモーティブワールドは、カーエレクトロニクスの進化を支える半導体・電子部材、ソフトウェア、テスティング技術などが一堂に出展する本分野世界最大の専門展です。



当社は、超小型／超低消費電力電源IC技術を応用したユニークな車載用電源ICを提案し、出品製品の中には36V対応同期整流式DC/DCコンバータとして世界最小クラスのパッケージサイズを実現する次世代車載電源ICも含まれ、大きな注目を集めました。

今後もイベント、展示会へ積極的に出展し、製品の拡販を行ってまいります。

当社の最新情報はWEBサイトでご覧いただけます。

トレックス

https://www.torex.co.jp/

トップページ

IR情報　https://ir.torex.co.jp

トレックス・セミコンダクター株式会社
〒104-0033　東京都中央区新川1-24-1
ユニゾ新川永代通りビル3F
TEL　(03)6222-2851

UD FONT
見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

VEGETABLE OIL INK
環境に配慮した植物油インキを使用しています。

FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C022915